

## 私達の未来の為にすべきこと

加須市立昭和中学校 3年 青柳 瑠那

税金は、多くの人々の生活や活動にかかわりを持っている。もちろんそれは、国や地方団体の経費を賄うに足りるものでなければならぬし、経済の発展に応じられる弾力性のある税制が必要だと私は思う。私達、小中学生の教科書は税金によって無償で支給されているため感謝する立場にあるのだ。たくさんの人と税金で成り立っている日本。人々と税金にはどのような関わりがあるのだろうか。

先日、病院へ定期検診へ行った。そこで目にしたのは、『コンビニ受診していませんか？』と書かれた一枚のポスター。子どもは無料だからと、軽症でも夜間休日を問わずに受診する「コンビニ受診」が増えてきているというのだ。私達子どもの医療費用は保険料と税金で支払われている。幼い頃から病気が理由で入退院を繰り返し、今現在も治療するための薬にたくさんのお金をかけている私にとって税金はとても大きな存在なのだ。もし、この『日本』という国に税金がなかったら医療費の負担額が大きく、困っていただろう。十五年間私は、たくさんの方々ののおかげで生活してこることができた。今問題になっているコンビニ受診と救急車の活用。全てを否定しているわけではないが、対応が本当に必要な人が助けを呼べなくなるという事態になってしまうことが私は怖い。

令和二年中の、救急自動車による救急出動件数は、五百九十三万三千三百九十回。その約4割が軽症患者の搬送だそうだ。お金がかからないからといって、タクシーのように利用しているのではないかと思ってしまう。国民が笑顔で生活できるように国が様々な対応をしてくれている中、納税者への感謝を忘れ平気で無駄遣いする人がいるのだ。私達が毎日安心して生活できるのはたくさんの人々が納税をし、日本を支えてくれているからではないだろうか。だから病院へ行って病気を治療することができるし、本当に助けを呼びたいときに救急車を呼べる環境で毎日生活することもできるのだ。

医療面だけでなく教科書や、人々が利用する公共施設など様々な面で税金は役立っている。私が、たくさんの人々が納税してくれたお金で病気を治すための治療をし、今まで何度も助けられたように税金によって助けられた子どもや大人は数えきれないほど沢山いるだろう。今まで築きあげてきた日本をよりよくするために、大人も子どもも税金とはどのようなものなのか考え直す必要がある。必要な時だけ救急車を呼ぼうとか、教科書を大事に使おうとか、小さな意識の積み重ねで日本をさらに良くしていけるのではないだろうか。

私は、今まで沢山の面で支えてくれた国や大人の方々への感謝の気持ちを行動で示したい。私達の未来に期待してお金を納めてくれたように私も大人になったら、子どもたちの未来に期待して、お金を納税しようと思う。